

# Campus WARS

## ○登場人物

[Five Angels ≡ 通称・天使ちゃんズ]

会長 …… 組織のリーダーだが、あまりものを考えてない。とりあえず強い。(ユウト)  
副会長 …… 隙あらば会長の座を狙う野心家。仕事は嫌いなので、徹底して逃げる。(ワカナ)  
書記 …… 普段はオドオドしているが、怒ると怖い。その上、強い。(カホ)  
アオイ …… 男になりたい女の子。その思いを押し殺して、生真面目に生きている。(ユヅキ)

[5 Bears ≡ 通称・ナナクマちゃん]

ボス …… ボス。つまり、ボス。(アヤメ)  
No. 2 …… アオイとNo. 5の友達。5のために秘密計画を手伝う。(ヒロアキ)  
No. 3 …… お金が好き。お金になるなら何でもするが、ならないとしない。(メイ)  
No. 4 …… 口が悪いが、根は悪くない。定時で必ず帰るタイプ。(ユイ)  
No. 5 …… アオイの幼馴染。普段は存在感がないが、やるときはとことんやる。(サヤ)

## S1 オープニング

NA① これから語られるのは、国際スパイ組織9Pが生まれる前の物語…。  
NA② マヨネーズは関係ない。  
NA③ 舞台は、とある国にある、とある学園都市9P。要するに超スゲーところにある、超ヤベー学校である。  
NA④ マヨネーズは作っていない。  
NA⑤ この学園には、非公式ながら誰もがその名を知っている、2つの超極秘組織があった。なにを言っているのか分からないと思うが、オレにも分からない。  
NA⑥ 道のゴミ拾いから学園の経営監査まで、学園の法と正義を守るエリート集団、ファイブ・エンジェルズ。通称・天使ちゃんズ。  
NA⑦ テストの答案隠しから非合法品の売買まで、闇取引の影には必ず奴らがいるという、その名をファイブ・ベアーズ。通称、ナナクマちゃん。  
NA⑧ なんで!?  
NA⑨ もちろん、その正体は誰も知らない…。  
NA⑩ そしてこの物語は、天使ちゃんズの元に、一つの恐るべき知らせが入ったことから始まるのである…。

## S2 なんかすごい高いところにあるきれいな部屋

ここは、天使ちゃんズが活動拠点としている、なんかスゴい感じの部屋である。そこでは、一番えらい会長が緊迫した表情で話している。



書記　　りの恐ろしい奴らだ。  
ここ、学校ですよね？

会長　　そんなクマちゃんたちが、今回は学園そのものの転覆を企み、動き出したらしい。  
学園の転覆……！？

副会長　それはいつたいたい何を……？

アオイ　理事長の暗殺！

会長　　え！

三人　　経営陣の粛清と乗っ取り！

会長　　わ！

三人　　学園を運営するための巨額の資金を使つてのあんなことやこんなこと……。

会長　　ひえ！

書記　　とまあ、現状の情報から考えられる緻密なシミュレーションによると、こんなところだ。

会長　　もう一度聞きますけど、ここ、学校ですよね？

書記　　常識に囚われてはいかん。世界はいつだって、可能性に満ちているんだ。

アオイ　はあ……。

会長　　……つまり、ナナクマちゃんの計画を暴き、それを阻止するのが私たちの使命というわけですね。

副会長　その通りだ。

会長　　さすが会長！　すでにそこまでお考えだったとは……。

三人　　賞賛は、全て解決した後にしてくれたまえ。では、諸君。各々の個性と適性を活かし、個々の判断で自律的な行動をとるように。以上！

おつかれさまでした！

意気揚々と、部屋を出ていく会長。途端に、ガラけ始める副会長。

副会長　あー……やつと行つてくれたわ。つかれんのよねーアイツのそばにいます。

書記　　え、あ、うん。

副会長　だいたいさ、「個々の判断で自律的な行動を」つて、要するに勝手にやれ、つてことですよ？

副会長　なーんも指示しないくせに、何が会長よ。偉そうに。

書記　　ちょ……聞こえるよ！

副会長　大丈夫よ。アイツ、自分の都合の悪いこと、耳に入らないから。

書記　　ホント、性格変わるよね……。

副会長　世渡りよ、世渡り。あたし、副会長だもん。このまま波風立てなきゃ、いずれはここはあたしのものになるわけだし、それでいいじゃん？

書記　　はあ……。

副会長　ま、この一件でアイツがポカやつてくれて、会長降ろされてもいいんだけどね。……その方が早いかな。あ、そうするか。

などと悪だくみをしている副会長に、アオイは冷たい口調でツツコむ。

アオイ　そういうの、違うと思う。

副会長　なによ。

アオイ　仮にも悪事が進んでる時に、自分のことだけ考えて、恥ずかしくないの？

副会長　マジメねー。じゃ、今のアイツのやり方で、その悪事とやらは解決できると思う？

アオイ　少なくとも、私はやるべきことをやります。それに……悪事を自分のために利用しようとする人より、信頼できるんじゃないですかね。

副会長　へえ……面白いじゃん。

と、なんだか不穏な空気…

書記

ちょ…あの、ケンカは良くないと思うな。

副会長

ケンカじゃないよ。方針についての見解の相違、つてヤツ。

アオイ  
副会長

物は言いようですね。ケンカつて言ってくれた方が、まだ信頼の余地はあるんですけど。求めてないからね、そんなの。

そう言つて、二人はジワジワと近寄っていく。一触即発の予感…。その緊張感に耐えきれず、書記がキレる。

書記

もー！ やめてください！

そう叫んで、二人を力いっぱい突き飛ばす書記。キレると怖い。

書記

なんなんですか、もう！ ケンカはイヤだつて言ってるじゃないですか！ なのになんでそんなことするんですか！ これ以上やったら、二人ともぶつ殺しますよ！

二人

(口々に) 待って、待って！

書記

(睨む)

副会長

いや、だからその…

書記

(睨む)

アオイ

あの、大丈夫です！ ケンカなんかしてないです！

副会長

ね、仲良しだもんねー！

二人

ねー！

二人の仲良しアピール。書記はそれを見て、コロッと機嫌を直して、

書記

なーんだ、もう、驚かせないでくださいよー。

二人

(ホッ…)

書記

やっぱり、仲良しが一番ですよね！

二人

アハハハ…。

気を取り直して…

副会長

とにかく！ 会長のご指示通り、あたしはあたしで動くから、あんたもあんたでやることやつてよね。

アオイ

言われなくても。

書記

…。

二人

(視線を感じて) 仲良くやりまーす！

二人、仲良しアピール。書記は満足げにうなずく。

書記

じゃ、みんな、行こ！

三人は、部屋を出ていく。

S3 人知れず地下にある薄暗い秘密の部屋

一方、こちらはクマちゃんたちのアジト――

ボス さあ、始めましょう。

まったく同じような感じで、ボスが緊張感あふれる表情で話し始める。

ボス 言うまでもないことだけど、これは我々ナクマちゃんにとって、過去最大の任務となるでしょう。命を落とす者が出るかもしれない。だがしかし！ その尊い犠牲の元に、我々は新たな世界を開くことになる！ くっ…（感涙）私は今日この時を、どれほど待ち侘びたことか…。いよいよこの学園を…いえ、世界を覆す時が来たのよ！ さあ、虐げられたものたちよ！ 今こそ反撃の狼煙を上げましょう！

みんな、拍手

ボス ナンバー2、報告を。

No. 2 ハッ！

No. 2、壁のモニターを見ながら説明を始める。

No. 2 すでにポイント1〜5まで、計画地点のすべてに爆薬を設置しました。相手の出方次第で、順次爆破できます。

ボス 経営陣の確保は？

No. 3 私が。すでにチームの編成は終わっています。現在、当局の対応をシミュレーション中です。

ボス 順調ね。

No. 4 ただ一つ、気がかりなことが…。

ボス 歯切れが悪いわね。スパッと言っちゃようだい。

No. 4 天使ちゃんたちが我々の動きに気づいたようです。どんな手を打ってくるかは分かりませんが、計画の一部変更も視野に入れるべきかと…。

ボス 必要ないわ。

No. 4 しかし！

私の計画に穴があるとも？

No. 4 ……。

ボス 下手な動揺は、返って付け入る隙を与えるだけよ。相手が誰であろうと、やるべきことをやればいい。結果は自ずからついてくるわ。

No. 4 はっ。  
ボス 決行は一週間後。全ての幹部が集まる学園サミットの日。ここで目的を果たせなければ、私たちに未来はない。貴方たちの健闘を祈ります。以上！

全力の気合を入れたボスの一言…しかし、部下たちは途端にやる気を失ったかのように、

部下たち はーい…。

そしてすぐに、バラバラに好き勝手なことをし始める。

ボス なによなによ、覇気がないわね。「はい！」とか「分かりました！」とか「世界を我らのものに！」とかないの？

NO. 3 え、それやったら、お金くれるんですか？

ボス いいえ。

NO. 3 じゃ、結構です。無駄な労力使いたくないんで。

ボス そうじゃないでしょ、そうじゃ。思いでしょ、志でしょ、みんなで「がんばるぞー！」ってやってこそ、いい仕事ができるわけじゃない。

NO. 3 さつき順調ね、って言ってたし。

ボス そうだけど。

NO. 4 ウザいんだよねー、そういう暑苦しいの。別にやることやってんだからいいじゃん。

ボス お前もか。

NO. 4 それともなに？ そうやって励ましてもらえないと、寂しくなっちゃうわけ？ お嬢ちゃん？

NO. 3 ウケるー。

NO. 4 え、さつき「以上！」って言いましたよね？ 会議終わったんだから、束縛しないでください。

二人、笑う。

ボス つたくコイツらは…あの二人を見なさい！ 仕事に取り組むあの真剣な眼差しを…！

と、指差す先にいるのは、何かを真剣にやっているNO. 2と5。…が、しかし、聞こえてくるのはゲーム音である。

NO. 2 うおおおお！ スゲー！ まじか！ やるな！

ボス 遊ぶなああああ！

ボスの絶叫に、二人は面倒臭そうに顔を上げる。

NO. 5 え？ でも今、やることないし。

NO. 2 遊ぶなって言われてもなあ…。

ボス …つたく、なんでこうウチのクマちゃんたちはまとまりがないのかしらねえ…。

ボス、ため息…

NO. 4 だいたいさあ、そのクマちゃんってなんなの？ クマちゃんって。

NO. 3 そうそう。

NO. 4 ファイブ・ベアーズはまあ分かるのよ。五人だし？ なんか強そうだし？

NO. 4 でもなんでその愛称がナナクマちゃんなわけ？

NO. 3 これはちゃんと一回聞きたいと思ってたんだよね。ほら私ってき、なんでも納得した上でないと、動きたくないタイプだからさ。いい機会だから、ちゃんと説明してもらおうじゃない。ナナクマちゃんのネーミングの謎を。

そう言って迫ってくる二人に対し、ボスは堂々と

ボス かわいいからよ。

二人  
は？

かわいいでしょ？ ナナクマちゃん。なんかこういう悪の組織が？ カッコつけた名前なのって、なんかイカニモって感じで好きになれないのよ。別にいいじゃない。ナナクマちゃん。かわいくて。

No. 4  
それじゃ…ななは？

ボス  
ゴロね。

二人  
ゴロ？

ボス  
ごくま、つて言いにくいじゃない。かわいくないし。だから、ナナクマちゃん。…文句ある？

二人、顔を見合わせる。

No. 3  
…天使ちゃんに乗り換えよ。

ボス  
いいじゃないの！ 名前なんてなんだつて！ この計画がうまくいったら、ボーナス出すわよ！

No. 3  
私、がんばります！

No. 4  
あんた、わっかりやすいわねえ…。

No. 3  
何よ。これ以上、純粋な動機つてないでしょ。

ボス  
はい！ それじゃ、名前の問題も一件落着したところで…今日も正々堂々美しく、学園転覆に向けて働いていきましょう！ 一同、解散！

ボスは、意気揚々と部屋を出ていく。

No. 4  
めんどくさいよねえ、あいつ。やることやってんだから、別にいいじゃねえか。

そうぼやきつつ、No. 4はふと2・5の方を見る。名前騒動の間も、二人は何かを真剣にやり続けていたのである。しかもその様子は、ゲームをやっているようには見えない。

No. 4  
なに、あんたら。

No. 2  
……。

No. 4  
すげーマジじゃん。実はお仕事がんばっちゃってるのか？

と言いながら、No. 4は二人の方に近づいていく。すると2はそれを遮るように立ち塞がる。

No. 2  
おい、見るな！

No. 4  
…なによ。

No. 2  
お互いのやることに干渉しない、つてのがオレたちのルールだろ。目的のためには手を組むが、オレたちは別に仲間じゃない。

No. 4  
……。

No. 2  
こつちのやることに口を挟むな。

ひと時、睨み合う二人。やがて、No. 4はどうでもいい、というように肩をすくめて、

No. 4  
はいはい、わかったわよ。そんな怖い顔しないで。別に口出しする気なんかないわよ。

No. 2  
……。

No. 4  
ただ、もしなんか余計なことしようとしてるんだつたら、やめてよね。足引つ張られたく

N O. 2 ないから。  
N O. 4 ……  
ねえ？

N O. 3 N O. 4 は、3を振り返る。しかし3は、4の味方をするわけでもなく、どっちも私、キョーミないから。勝手にやつて。

と言って、部屋を出ていく。

N O. 4 じゃ。次のミーティングで。

そして、N O. 4も出ていく。

N O. 2は二人が完全に出ていったことを確認してから、5に話しかける。

N O. 2 どうだ？

N O. 5 うん、順調。問題ないよ。

N O. 2 そうか。

N O. 5は作業をしながら、ボソツと、

N O. 5 ありがとう。

N O. 2 ん？

N O. 5 手伝ってくれて。

N O. 2 まあな。

N O. 2はちよつと躊躇いながら、

N O. 2 ……友達だからな。

N O. 5は、それには答ええない。しかし、その言葉を受け入れてはいる。

N O. 2 変わるかといいな。

N O. 5 ……

N O. 2 せかい世界。

N O. 5 うん。

N O. 5は強い決意を込めて、頷く。

N O. 5 変えるよ。絶対。

N O. 2 ……がんばれ。

#### S 4 学園内のどっかちよつと人気のないところ

一人、座っているN O. 5の所に、たまたまアオイが通りかかる。

アオイ ……!

アオイはNO. 5に気づくと、足早に通り過ぎようとする。

NO. 5 やあ。

気さくな調子で声をかけてくるNO. 5に、アオイは返事を返すかどうか、ちょっと迷う。しかし、やがて振り返って、

アオイ 何か用？

NO. 5 別に。ただ、元気かな、って思っ

アオイ ……。

NO. 5 最近、あんまり話せてなかったし…なんとなく、無理してるのかな、って思ってたから。

アオイ ……関係ないでしょ。

NO. 5 アオくん。

アオイ その呼び方はやめて。

NO. 5 ……。

アオイ もう昔とは違うんだから。

NO. 5 ……。

アオイ 分かるでしょ。私は女なの。アオくんじゃない。

NO. 5 ……。

アオイ 子供の頃みたいにはできないよ。

NO. 5は少しの間、アオイを見つめる。

NO. 5 そうかな。

アオイ ……。

NO. 5 今も昔も、アオくんはアオくんだよ。

アオイ ……。

NO. 5 僕にとつてはね。

アオイ ……。

NO. 5 いつも僕のそばにいて、僕のことを守ってくれた。だれより強くてまっすぐで、僕の一番のヒーローだった。

アオイはそれには答えない。

代わりに、自分が履いているスカートを広げて見せる。

アオイ 似合う？

NO. 5 え？

アオイ スカート。

NO. 5 ……。

アオイ 似合うって言って。

NO. 5 でも、

アオイ 女の子がね、服のこと聞いたら、似合う以外は言っちゃダメだよ。それがほら、マナーってもんでしょ。

NO. 5は、仕方なくと言った感じで頷く。

No. 5 …似合うよ。  
アオイ …ありがとう。

そしてアオイは、厳しい天使ちゃんの顔になって、囁くように、

アオイ 一つだけ、警告しとくね。何か企んでるなら、やめて。私は絶対止めるし、そのためならア  
ンタとも戦うから。

No. 5 ……。

それだけ言つて、アオイは去ろうとする。その前に、No. 2が出てくる。  
何か言いたげに、アオイを見つめるNo. 2。

アオイ なに？

No. 2 ……。

しかし、No. 2は自分が口を挟むことではないことを知っている。

アオイ アンタも友達なら、アイツに馬鹿なこと考えさせてないで。迷惑なの。

アオイは去っていく。

No. 2 そして、いよいよ学園サミット当日。計画実行の日がやってきた。

## S5 地下アジトのいろんな場所を行ったり来たり

ナナクマちゃんの悪事を阻止すべく、集合した天使ちゃんズ。なんかそれぞれ、武器を  
持っている。

会長 さあ、いよいよ学園サミットの日だ。今日、奴らが動くという情報に間違いはないな？

書記 は、は、はい！ 今日が一網打尽にするチャンスだと思います！

会長 奴らの潜伏場所は？

アオイ 判明しました。これが地下組織の見取り図です。恐らく、要所要所に見張りを配置してい  
るものと思われます。

会長 見事な働きだ。

副会長 いえいえ、全ては会長の指揮があつてこそ。私たちだけではとてもとても…。

会長 それほどでも…あるな。

微塵も自分を疑わないのが、会長の会長たる所以である。

会長 では、奴らが動き出す前に叩くでしょう。総員、戦闘開始！

そう言うなり、会長は自ら先頭切つて突つ込んでいく。暴れるのは好きである。  
その前に現れる、ナナクマちゃんの下っぱ戦闘員たち…！

副会長 あ、会長！ 敵です！

会長 うおりやああああ！

と、会長は気合イッパツ、戦闘員たちを吹っ飛ばす。

書記・アオイ 吹っ飛ばしたーっ！

会長 フン、他愛もない…。

副会長 さすがです、会長！

しかし、敵は次々と出てくるのである。

書記 あっちにも！

会長 うおりやああああ！

アオイ こっちにも！

会長 うおりやああああああ！

三人 (バラバラの方を指差して) そっちにも！

会長 うおりやああああああああ！

でも、全部倒す。会長だから。

副会長 (爽やかに汗を拭く) ふう…さすが、敵の本拠地ですね。これは激しい戦いになりそうです。

アオイ …あんた、何にもしてないじゃん。

副会長 あ？

例によって二人がにらみあった時、生き残っていた戦闘員が起き上がり、書記の体に手をかける。

戦闘員 おい…！

書記 何するんですかああああ！！！

ブチ切れて、銃を乱射する書記。何度も言うが、ここは学校である。

書記 脅かさないでください！ 失礼ですよ！

副会長・アオイ こわっ…。

にらみ合っていた二人は、書記にバレないようにそっと離れる。

会長 こんな雑魚に構っている場合ではない。さあ、急ぐぞ！

天使ちゃんズは、颯爽と駆け出していく。

一方、地下アジトの最深部付近――

N.O. 2 天使ちゃんズが侵入してきた模様です。

ボス ここを嗅ぎつけるとは…奴らもバカではないってことね。

N.O. 2 どうしますか？

ボス 決まってるでしょ。来るものは拒まず、ただ倒すのみ。それが、我らナナクマちゃんの鉄の掟！

全員、武器を構える。今は仕事モードである。

ボス 全軍を持って迎え撃つ！ 出撃！

サツと散っていく、クマちゃんたち。

地下アジトのどっかの通路――

N.O. 3 あーあ：肉体労働つてキライなのよねー。

N.O. 4 分かるー。だるいしー汗かくしーめんどくさいしー。

N.O. 3 でもまあ、仕事つて言われちゃうとねー。

N.O. 4 やるしかないよねー。

二人の前に現れる、天使ちゃんズのヒラ構成員。

N.O. 3 あんたたち、覚悟しなさい。

で、なんか戦って倒すのである。

N.O. 4 あースッキリした！

N.O. 3 快感…！

二人はハイタッチして、去っていく。

また別の場所――

こちらでは、N.O. 2と5がヒラ構成員に囲まれている。

N.O. 2 お前たちに恨みはないが…すべては我らの理想のためだ。

N.O. 5 ここは一步たりとも通すわけにはいかない。

で、なんか戦って倒すのである。

N.O. 5 お前たちでは相手にならない。

N.O. 2 命を失う前に、去ることだ。

そしてまた、別の場所へ…

## S 6 地下アジトの最深部付近の部屋

ヒラ構成員が敗れる中、数々の難関を（主に会長一人で）乗り越えて来た、天使ちゃんズ。いよいよ、決戦の舞台にたどり着いたのである。

副会長 ファイト、ファイト、会長！ ガンバレ、ガンバレ、会長！

しかし、さすがの会長の疲労困憊で、書記とアオイの肩を借りて歩いている。

会長 ハア…ハア…ハア…。疲れた〜！

と、バツタリ倒れる、会長。

書記

会長、大丈夫ですか？

副会長

(悲劇的に) 本当に…長く厳しい戦いでした…。しかし我々は、大義を胸に戦い抜きました。さあ、敵の本拠地まではあとわずかです！ いざ、進め！ 正義のために！

アオイ、とうとう副会長をぶつ叩く。

アオイ

だからあんた！ 何にもしてないでしょ！

副会長

あ？

アオイ

会長を見てみなさいよ！ 一人で戦って、死にそうになってるじゃない！

会長

もう死んでます…。

書記

会長！ お気を確かに！

副会長

ハッ！ ひよつとして、今がこの脳筋暴力アホ会長から地位を奪うチャンスなので…？

アオイ

(もう無理)…そういうの、作戦が終わってからにしてください。

副会長

チッ…。

その時、突如として警報が鳴り響く——！

天使ズ

……！

同時に、部屋につながる通路にシャッターが降りてくる。

アオイ

これは…畏！？

そこに現れたのは、もちろんナナクマちゃんの幹部たちである。

ボス

オーッホッホッホッ！ 無様ね、ファイブ・エンジェルズ。これであんたたちは袋のネズミ。いえ、羽をもがれた天使ちゃんと言った方がいいかしら。それともう虫ね、虫ケラ。

虫ケラは虫ケラらしく、我らナナクマちゃんに踏み潰されるがいいわ。

アオイ

あれが…ボス！？

警戒する天使ちゃんたちだったが、会長だけは馴染みの様子でボスに近づいていく。

会長

頭の高さは相変わらずだな。悪役は悪役らしく、陰でコソコソしていればいいものを。

ボス

後先考えずに突っ走るだけのバカに指図される謂れはないわ。

会長

へえ？

ボス

ほう？

会長

何だ。

ボス

何かしら。

その二人の様子に、みんなは不思議そうに、

副会長

あの…会長？ お知り合いなんですか？

会長

ああ…ボスくまとは、十数年に及ぶ確執の歴史がある。

ボス

何せ私たち…

会長・ボス 席、隣だから。  
みんな え？

会長 保育園からずっと一緒。

ボス 何度クラス替えがあっても、決して離れることのない二人…。

会長 もはやそれは、この学園のレジェンド。

副会長 癒着だわ…癒着の匂いがする！

会長・ボス それはない。

キツパリ、首を振る会長とボス。意外に気は合うのかもしれない。

アオイ 狙いは、学園サミット？

ボス ……。

アオイ 経営陣を脅して、いったい何をしようって言うの？

ボス いいでしょう、ここまでやって来た、その健闘に敬意を表して教えてあげるわ。今回の

我々の計画…それは…！

天使ズ それは…！

制服のデザインを変えることよ！

チーン…

ボス 入った時からズーっと思ってたのよねえ…。襟のとこのね、ここ、このね、このカーブが

ね、違うのよ、こうじゃないのよ、スツと行きたいのよ、スツと。なんかほら、モツサリしてるじゃない、襟元が。

……。

ボス そう、これこそは、学園に通うすべての人間の根底を揺るがす大事件。…いいえ、これはも

はや革命と呼ぶべきよ！

みんな ……。

ボス すでに、爆薬は設置済み。我々の欲求を飲まなければ、学園サミットに集まった幹部たちは、全員消し炭になって吹き飛ぶわ。さあ、今こそ我らの新たな未来を掴むのよ！

シーン…

副会長 会長…。

私たち、こんなことのために戦ってたんですか？

会長は怒りに体を震わせながら…

会長 この…バカ！

バカ!?

会長 お前ってヤツは…昔頃からそうだよな。そういうところ、こだわり出したら止まんないんだから。そんなことで爆弾に吹っ飛ばされる経営陣が可哀想とか思わないの？

なによ、代わりなんていくらでもいるでしょ。

そういう問題じゃない！…もういい。バカの相手をしてたつてしようがない。

ボス あら、戦う気？

ボスの合図と共に、クマちゃんたちは悠々と前に出てくる。

N.O. 4 分かってないようだけど、こっちはすでに経営陣を人質に取ったも同然…。  
N.O. 2 この爆破スイッチを押されなくなかったら、大人しくすることだな。

そう言つて、N.O. 2は爆破スイッチを見せつける。これはまさに、絶体絶命…！

会長 フツ…フツフツフツ…。

クマちゃんズ ……？

会長 アーハッハッハッ！

と、高笑いをする天使ちゃんズ。

副会長 押したければ、勝手にどうぞ。

N.O. 2 なに？

書記 ただ、ちゃんと起爆装置が動くは…その、どうでしょう？

N.O. 2 まさか…！？

N.O. 2、スイッチを押すが、反応がない。

N.O. 4 ダメです！ ポイント1と5、全て反応ありません！

ボス なんですって！？

N.O. 2 チェックは万全ばんぜんだったはず…。どうやって起爆装置きばくそうちを壊こわした！？

のんびりと、手を上げるN.O. 3。

N.O. 3 あ、さつきあーしがやりました。

クマちゃんズ は！？

N.O. 3 結構、いい金くれたんで。

クマちゃんズ はあああ！？！？

副会長 残念だったわね。まさか、こんな身近にスパイがいるとは思わなかったでしょ？

会長 そう、彼女こそ五人目のエンジェル！

N.O. 3 あ、そういうのいいですー。一応、こっち（クマちゃん）が本業なんで。

ガクツ…。

N.O. 2 エンジェルに五人目ごにんめが…。…ということは、ボス、こっちも六人目ろくにんめ、七人目ななにんめのクマちゃんが…？

N.O. 4 それこそが、ナクマちゃんなぐまちゃんの秘密だったってこと！？

ボス …いないわ。あれはただの語呂ごりよなもの。

そう、ボスは本当にただの好みで名前をつけていたのである。もはや、怒る気力さえ起きないクマちゃんたち。

N.O. 4 なんとなく…予感よかんはしてたのよ…。いつかこうなるって…。

N.O. 2 こうなったら、やむを得えないか…。

N.O. 2は、5に目線で合図を送る。それに答えて小さく頷く、N.O. 5。

会長 形成逆転だな、ファイブ・ベアーズ。全員引っ捕らえろ！  
No. 5 スイッチ、オン。

爆発音――

会長 な、なんだ！？

副会長 爆発……！？

書記 そんな、起爆装置は全部切つたと報告が…

一斉にNo. 3を見る、天使ちゃんズ。No. 3はその視線に気づいて、

No. 3 やつたわよ、ちゃんと！ お金の分は仕事するのが、あーしのポリシーなの！

爆発音――

もちろん、No. 3のせいではない。ぶらりと前に出てきたのは、密かに計画を進めていたNo. 5である。

No. 5 …うん、違うよ。僕が勝手に仕掛けた分だ。どうせこんなことになるだろうと思つてたからさ。

アオイ サヤ…。

No. 5 革命はまだ終わりじゃない。僕は、世界を変えるんだ。

爆発音――

急激なシリアス展開にみんなが戸惑う中、アオイは一人、進み出てくる。

No. 2、No. 5を庇うように立ち塞がる。

アオイ ……どうということ？

No. 5 ……。

アオイ いったい何を企んでるの？

ボス やつぱり私のために制服を…！？

No. 5 それはない。

ボス (シヨック)

No. 5 うん、まあね…。制服もね、変えてあげたかったんだけど…。

書記 変えて…あげたかった？

No. 5 それより、もつと手つ取り早いんじゃないかと思つたんだ。全部…ぶつ壊しちゃった方が。

アオイ 全部…？

No. 5 この学園を、全部。

アオイ ……。

No. 5 そうすれば、嫌なことは全部なくなるから。

アオイ いったい、何を言ってるの…？

No. 5 だから、これは脅しじゃないし、要求もない。誰かを人質にするつもりもないんだ。僕はただ…壊せればいいんだから。

爆発音――

No. 2 これから一定時間ごとに、学園中に仕掛けられた爆弾が爆発することになっている。巻き込まれなくなければ、早く逃げるのだ。

書記  
副会長

そう言うと、N.O. 2は5と目線を交わす。「分かっている」というように頷く、N.O. 5。  
会長：…なんなんですか…このどシリアスな空気…！  
こんなの…耐えられません！

そして去って行こうとするN.O. 5に、アオイは追い続ける。

アオイ  
待って！

N.O. 5  
……。

アオイ  
なんでこんなこと…。また、誰かがあなたに何かした？ だったら言つてよ。私、なん  
だつてしてあげるから…！ だからこんなことやめて…

N.O. 5  
違うよ、そうじゃない。

アオイ  
……。

N.O. 5  
ただ…さ、ここには「当たり前」が多すぎるんだ。ああでなきゃいけない、こうしなきゃい  
けない、これが普通なんだつて…。その「普通」つて不自由から、僕は解放したいだけなん  
だ。

そして、N.O. 5はアオイを真っ直ぐ見つめる。

N.O. 5  
アオくんを。

アオイ  
……。

N.O. 5  
みんなを。

アオイ  
サヤ…。

N.O. 5  
僕の願いは、それだけだよ。

そう言うと、N.O. 5は部屋を出ていく。それを追おうとするアオイの前に、N.O. 2が  
立ち塞がる。

N.O. 2  
邪魔をするな。ここから先は、だれであろうと通すつもりはない。

そしてN.O. 5は、爆煙の向こうへと去って行く…。

S  
7

爆発音の響く同じ部屋…その後

部屋に残された天使&クマちゃんたちと、追わないように見張りに残る、N.O. 2。

N.O. 3  
あー、面白くない。

副会長  
ねー。

N.O. 3  
あー、面白くない。

副会長  
ねー。

N.O. 3  
あー、ほんつとに面白くない！

副会長  
ねー。

N.O. 3  
ちよつと！ 何その適当な返し。

副会長  
だつて…頑張つてもメリツトないし。

二人、顔を見合わせる。そして二人は、互いが似たもの同士であることに気づく。

副会長・N.O. 3 同志よ。

二人、なぜか抱き合う。

爆発音――

N.O. 4 うつさいわね！ ドッカンドッカンの爆発するしか能がないわけ！？  
書記 あの、爆弾なんで…すいません。

N.O. 4 は、今度はN.O. 2に向かって、八つ当たり気味に、

N.O. 4 あんたさ…。

N.O. 2 ……。

N.O. 4 知ってたの？ あいつのやってること。

N.O. 2 ……ああ。

N.O. 4 ずっと二人でコソコソしてたもんねえ。

N.O. 2 ……。

N.O. 4 で？ あんたがもらう取り分は？ それとも、あんたただの破壊衝動？

N.O. 2 そうじゃない。

N.O. 4 じゃ、何よ。

N.O. 2 だれにだつて、不自由ふじゆうに思うおもことはある。何もかも、ぶち壊こわしたくなることもある。オレにはあいつの気持ちきもちがわかつたし、だから手伝てつだった。それだけだ。

N.O. 4 だからだつて、ここまでやる？

N.O. 2 ……本当に必要ほんとうひつようなもののためなら、なんだつてやるのがオレたちだろ。

N.O. 2 は、チラリとアオイの方を見る。

アオイ ……。

それにつられて、みんなもアオイを見る。彼女がキーであることは、みんな分かっている。  
…ただ一人を除いて。

会長 まあ…気持ちは分かるけどな。

書記 会長…。

会長 こんな世の中だから、不自由なこつて、いっぱいある。俺もさ…ずっと思ってたんだ。

その会長の言葉を、みんなはしんみりと聞いている。

会長 この右下の八重歯がさ、当たるんだよ…口の中で。一日何回、口の中噛むと思う！？ ああ…！！ この不自由から解放されるんだつたら、世界が滅んだつていい！ だろ！？

みんな ……。

副会長 やっぱりこいつ、ぶち殺しましょ。

会長 なんて？！

みんなはまた、白けたように座り込む。書記、アオイのそばへ行くと、優しい口調で、

書記 それで…どうするんです？

アオイ …え？

書記 これから。

アオイ え…私？

NO. 3 そりゃ、あんたつしよ。あんたしか事情分かってないんだから。

アオイ ……。

書記 友達…なんですよ。

アオイ 友達…。

書記 違うんですか？

アオイ ううん、そう…。たぶん、そう…なんだと思う。

アオイは少し、考えて…

アオイ だからたぶん、サヤがやっていることは全部、私のためなんだ…。

書記 ……。

アオイ でも私は…こんなこと、望んでない。

アオイは突然、弾かれたように立ち上がると、みんなに向かつて思いを吐き出すように、

アオイ だって私は…！ ちゃんと普通になろうとしたんです。私は普通の女の子で、みんなと同じように、当たり前で、普通の学校生活送ろうって…。だって、もう私は、子供じゃない。

決められたことは、守らなきゃいけない。やらなきゃいけない。そう思ったから、だから私は…。

みんな ……。

アオイ ちゃんとあいつにもそう言ったのに…。

アオイの言葉は、だんだん力を失っていく。

NO. 4 …え、何それ。え、なに？ 被害者宣言？

書記 ちよつと。

NO. 4 だってそれはアンタの事情でしょ。そんなのどうだっていいわけよ。

書記 言葉が過ぎますよ。

NO. 4 だってそうじゃん？ あんたがどう生きてようが、私には関係ないし、どうでもいい。別に興味ないから好きになよ。なんか、こつちのせいにされてるみたいで、やな感じ。

アオイ 別に、そんなつもりじゃ…！

NO. 4 ねえ、いい？ 今あんたとアイツは揉めてて、そのせいで上じゃあドッカンドッカ爆弾が爆発してる。なんかスゴいことになってんのよ。よく分かんないけど、もうめっちゃくちゃなの。みんな巻き込まれてんの。だったらもう、決めるしかないじゃん。

アオイ ……。

NO. 4 あんたはどうしたいの？

アオイ 私…？

NO. 4 そう。あんたは、どうしたいの？

アオイは、答えられない。

書記 この人は根が暗いので言葉が悪いですけど…。

NO. 4 ちよつと！

書記

彼は…制服を変えて「あげたかった」って言っていました。だから本当に、ただあなたのためだけに戦おうとしてるんだと思います。

アオイ

でも…!

書記

(遮って) だったら、話は簡単です。

アオイ

簡単?

書記

彼にとつてあなたが「世界」なら、あなたが変われば、全ては終わります。

アオイ

……。

書記

もう、外の世界を壊す必要はない。

N.O. 4

そ。要は、あんた次第ってこと。

アオイは驚いたように、みんなを見回す。誰も自分を責めるわけでも、否定するわけでもない。それはアオイにとつて、予想外のことであった。

アオイ

私…。

なかなか言葉にならないアオイ。そんなアオイに、いつもは絶対関わらない副会長が優しく声をかける。

副会長

大丈夫。みんなを信じて。

アオイ

副会長…。

副会長

私たちは、ずっとあなたのそばにいる。

優しく頷いてみせる、副会長。

アオイ

…めんどくさくなつて、勝手に話まとめるのやめてください。

副会長

バレたか…。

しかし、そのブレなさが、アオイの心をちよつと軽くする。

アオイ

でも…ありがとうございます。

N.O. 3、勢いよく立ち上がる。

N.O. 3

じゃ、行きますか!

N.O. 4

あら、珍しい。

N.O. 3

何よ。

N.O. 4

金にならないわよ。

N.O. 3

フツ…世の中にはね、お金より大事なものがあるのよ。それは…コネと人脈!

N.O. 4

……。

N.O. 3

学園崩壊の危機を救ったという実績と信頼! それは今後の全ての生活を左右するわ!

副会長

同志よ!

二人、なぜか抱き合う。

N.O. 3

(N.O. 2に) 文句ないでしょ?

N.O. 2

……。

N.O. 3

あんたが意地でも止めるって言うなら、私ら全員相手にすることになるけど。

No. 2 いや、いい。

No. 2 は道を開ける。

No. 2 (アオイに) あいつを頼む。

アオイ (頷く)

爆発音――

ボス では、話がまとまったところで…総員、戦闘準備！

クマちゃんズ はっ！

会長 私たちで、アオイをサヤのところまで連れて行く。

天使ちゃんズ 了解！

爆発音――

会長 ここからは、我ら天使ちゃんズと、

ボス ナナクマちゃんの共同戦線！

会長 各々の個性と適性を活かし、個々の判断で自律的な行動をとるように！

みんな ラジャー！

全員、駆け出していく。

## SS

### どこか

アオイとNo. 5――

No. 5 やあ。

アオイ …やあ。

No. 5 どうしたの？ こんなところで。

アオイ 止めにきたの。

No. 5 ……。

アオイ あなたを。

No. 5 どうして？

アオイ もう…大丈夫だから。大丈夫にするって、決めたから。

爆発音――

アオイ

ずっと思ってた。私は、私でなきゃいけないって。それが正しいことなんだって。でもね、僕が私でいるその時間が、僕の心を壊していった。私で過ごす一日が、誰かと話し、笑い、生きるその一瞬、一瞬が、私の中の僕に突き刺さって、痛くて、苦しくて、本当は叫び出したくて、でもそれはできないから、私は、私の中の僕を心の奥底に閉じ込めて、握りつぶした。そしてグシャグシャの血まみれになったそれは、もう声を上げることも無くなつて、私の心の奥の奥の…深い暗闇の中に消えていった。それでよかった。もう私は解放されたんだ、って、そう思ってた。

けどね、時々…窓から見える当たり前の景色に、絶望することがある。何もかもが嘘く

さくて、空っぽになつて、どうでもよくなる時がある。だって、全部嘘なんだ。私がすることも言うことも何もかも、全部全部嘘なんだ。嘘に嘘で固めてできた、上っ面だけの私の中で、声にならない悲鳴だけが響いてる。

No. 5 ……。

アオイ その声を…君だけが聞いてくれた。

爆発音――

アオイ

馬鹿だね。いなくなるはずがないのに…。どんなに握りつぶして押し隠しても…僕はやっぱり、僕だから。だから、言つてやることにしたんだ。ふぎけん！…つて。ふぎけん、僕は僕だ。他の誰でもない。これが僕だ。

No. 5 ……うん。

アオイ、No. 5に手を差し出す。

アオイ

…ありがとう。いつも僕を見ていてくれて。もう大丈夫。まだちょっと怖いけど…せつかく君がくれた機会だから。もう一度、僕は僕で、生きてみようと思う。

No. 5はその手を取り、二人はしっかりと握手をする。

## S9

### ズタボロになった学園の広場、あるいは焼け跡

焼け跡に悲劇的に立つ、副会長の姿…。

副会長

こうして…長い長い、戦いの一日が終わつたのです。その爪痕は深く、しかし、沈みゆく夕陽に赤く染まつた空は、不思議なほどに穏やかでした。まるで生まれ変わった世界を象徴するかのよう…。

一方で、ノートンキに出てくる、他のみんな。

ボス

いやー、壊れた壊れた。

No. 3

派手にやつたわねえ。

No. 4

ここまでやると、なんかスカツとするわねー。

会長

どう？ だいぶ死んだ？

No. 2

一応、人に被害が出ないようには設置せつちしました。その分、建物たてものの被害ひがいはすごいですが…。

書記

いいんですよ！ 人が一人、世界を変えたんです。学園の一つや二つ、吹っ飛びますよ。

副会長

あんた、そういうところ思い切りがいいのよねえ…。

会長とボスが並んでみんなを呼び集める。

会長

はーい、みんな、集合！

ボス

ここで、私たちから発表があります！

みんな

発表？

会長

何度も何度も慎重に慎重を重ねた議論の結果…我々ファイブ・エンジェルズと、

ボス

我々ファイブ・ベアーズは、

会長・ボス

合併することいたしました！

みんな  
合併!?

突然のことに、みんなはついていけない。

No. 2 え、どういうことですか?

会長 今回の一件で思ったんだ。世の中には、法と秩序だけでは解決できない様々な問題がある。しかし! 我々が力を合わせれば、解決できない問題などない!

会長 ご近所さんの犬の散歩から、国際的な紛争回避まで、ありとあらゆる課題を解決する、9人のプロフェッショナル集団: その名も9P!

みんな  
キューピー!

副会長  
マヨネーズを作つてそう…。

会長  
(咳払い) …で、どうだ?

みんなは顔を見合わせる。なんかもう、呆れた雰囲気である。

No. 4 どうつて…ねえ。

No. 3  
ねえ。

ボス  
何よ。

No. 4 いやだつて言つたつて、どうせやるんでしょ。だつたら好きにしたらいじやない? 覇気がないな、覇気が。もつとこう、あるでしょ。熱いものがぎ。

ボス 「やりましょう!」とか「えいえいおー!」とかないわけ?

No. 3 お金にならないんで!

副会長 …え! ちょっと待つてください! …ということは、私の会長昇進はなくなるつてこと

…?

書記  
ですなえ。

副会長 はあああ?! だつたら私、これまでなんのために…

書記 まあまあ、そういうことはいいじゃないですか。いろいろ丸く収まつたわけですから。

副会長  
いや、でも

書記  
まあまあ。

副会長  
いやでも、

書記  
まあまあまあ。あんまりしつこいと、ぶつ殺しますよ。

No. 4 じゃ、なんか動きがあつたら連絡ください。

そしてみんなは、特に盛り上がることもなく、バラバラと解散し始める。

ボス …つたく、いつまでたつても勝手なんだから…。

会長  
ちよつと待つて、こら!

それを追いかけていく、会長とボス。

そして残つたのは、アオイとNo. 5、No. 2である。

No. 2  
よかつたな。

No. 5  
ああ。

No. 2  
あかつたな。

No. 5  
……。

No. 2  
世界。

No. 5  
ああ。

アオイ ありがとうな。

No. 2、励ますようにアオイの肩を叩く。

No. 2 今度は…お前の番だ。お前がだれかの世界を変えてやれ。  
アオイ …うん。

アオイは、力強く頷く。

アオイ がんばる。

No. 2 おう。

No. 5 がんばれ。

三人、笑う。

No. 2 それにしても…(苦笑) キューピーか。

三人は、顔を合わせると、無邪気にふざけ合うように、

三人 …マヨネーズは関係ない。

そして三人は、楽しみに何事か話しながら去って行く。

幕